

第708号

令和6年6月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのひ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

暑気ぐらしへ学びと試み

はるのひ館



▶はるのひホームページ▶  
▶QRコード▶  
▶月次掲載▶  
▶09室曜別▶  
▶1回ローロー▶

## 『路傍講演⑪』

ここ、大阪はなんば高島屋の前をご通行中の皆さん、私たちは天理教の布教隊です。

令和八年一月に【教祖（おやさま）百四十年祭】を迎えるまでの三年千日の期間中

大阪教区三十三支部が当地において、毎日順繰りに午前十時から「神名流し」と「路傍講演」を展開しています。

さて、きょうは天理教教祖〓おやさまから学んだことをもとに私が考えた、どんな問題でも解決するという万能薬

名づけて「天理公式」〓「問題を自分の課題と見なし、課題は本題のためと考える公式」について紹介しましょう。

親子問題、夫婦問題を初め、家庭問題のみならず、仕事など社会問題であろうと、どんな問題でも

この公式を使えば、すべてはたちどころに解決、とまで行かなくても少なくとも見通しがつくという人生公式です。

例えば、サッカーのAチームはBチームが苦手で、何としても勝てず悩んでいるとしましょう。

Bチームが問題だ、くやしい、と思っっている間は、問題はいつまでも解けないでしょう。しかし、そこで

Aチームのメンバーが、自分たちの力不足こそ本当の理由だと気づき、Aチームの成長こそ課題だと見なして

自分たちの弱点を研究し、その克服に懸命に努力すれば、きつと明るい可能性が開けることでしよう。

そして、サッカー全体のレベルが上がリ、みんなが喜べる陽気暮らしという本題に近づくことになります。

スポーツでは恐らく当然の考え方なのでしょうが、実生活ではこの公式はあまり使われず

いつも、いつまでも、相手や状況が悪い、相手や状況こそ問題だと見誤り、こだわり続けてしまう

そのために、問題が解決どころか、ますます悪化して破滅にまで至るケースがあとを絶たないのです。

心の成人をめざして  
よろこび・つつしみ・はたらき

## シリーズ

### 『逸話篇から学ぶ十六 飯降伊蔵先生⑪』

芝 光男

本席飯降伊蔵先生が教祖からお教えいただいた有名なお話は、「朝起き 正直 働き」ですが、それは、「朝、起こされるのと、人を起こすのでは、大きく徳不徳に分かれる。陰でよく働き、人を褒めるのは正直」とも教えられます。再度、少し詳しく書いていきたいと思います。

朝起きは、アツサリ起きる、布団の中でウダウダ言っていないで、サツサと起きて、「さあ今日も頑張るぞ」と、かしものとりものに感謝すること。それから、目覚めて一日が始まりますから、仕事の関係で何時に起きようが、目覚めたときが大切、ということ。昔は「おてんとう様より遅く起きるとバチが当たる」と言われたものでした。神様への感謝ですね。

おさしづに、「さあ明日からは朝も早く起きて、むさ

苦しい仕事は人にはささんよ、めんめんするよう働くよう」と言われていました。

目が覚めるからこそ、一日が始まり、スタートするのです。だからこそ、朝こそ、素晴らしい一日の始まりでありたいものです。

「正直」です。一般に正直というのは、人より自分の気持ち優先している方が多いですね。早く言えば、「自分中心」ということです。

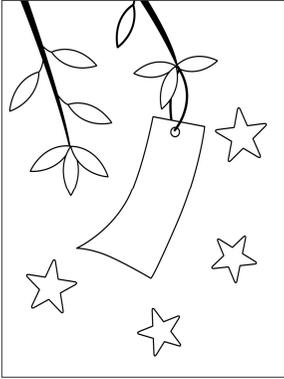
教祖のおっしゃる正直とは人の気持ちを大切に、人たすかることを素直に実行することだと思えます。「天網恢恢疎にして漏らさず（てんもうかいがい、そこにしてもらさず）」ということわざがあります。どんなにうまく人の目をごまかせても、神様の目はごまかせませんよ、ということ。嘘で人をごまかせても、あとで自分が困ることになる、と。

「正直者が馬鹿をみる」とも言います。それでいいのです。最後は、帳尻が合つてきます。むしろ固い信用と信頼が生まれます。何に正直であるのか、教祖は、「天の定規」に当ててみなされ、とおっしゃいました。

「働き」とは、表の働きではなく、本当は「陰」の働きが大事なのです。人がいるところでは一生懸命でも、いないところではあまりしない、というのでは真の働きとはいえないですね。いないところでも、「陰日向では働く」ということですね。表の働きも陰の働きも、必ず見る人は見えています。

もうひとつ大事なのは、「陰で人を褒めること」です。人の悪口は、必ず広がります。「陰で褒めておく」とかならず、その人の価値は上がってきます。陰口は、その人の価値と信用を落としていきます。

思えば、簡単なことなのです。



## 五月月次祭講話（要旨）

詰所主任 芝 光男

### 『心澄ますといふこと』

人生を上下二巻の本に例えてみると、自分の人生は、今どこかなと考えてみました。上巻を半分の四十五歳にすると、昨年私は七十歳になりましたので、上下巻の下巻に少し入ったところかな、と思います。

七十歳になってから、私は半生を振り返ることが多くなりました。

その中、大きな区切りのひとつは「憩の家事情部」で講師の任に付いたことでした。

お道の信仰で大事なことは、二つあります。それは、①ようぼくになること②おつとめができること③おさづけを取り次ぐこと、の三つです。

お道の御用をされていて、事情部でおさづけの取次ぎを主に勤められるというのは、これほど尊くうれしいことはありません。

そして、事情部に勤めるようになって十年が経ちました。現在、私は憩の家の「白川分院」というところに配属されています。月に六日から八日勤務しています。

一日に平均十人の方々におさづけをさせていただいています。勤めています白川分院はリハビリ病棟で、骨折や股関節の手術後のリハビリが必要な人が入院されています。

そして、さらに多いのは脳疾患のリハビリで入院されておられる方々です。脳梗塞、脳出血などのリハビリ治療で入院されている方々です。私は三年前、脳梗塞になりましたので、手足や言葉の障害を克服しようとしておられる方々の懸命なお姿をみると、私は障害が残りませんが、本当は私の姿ではなかつたかと思うと、自ずと、おさづけを取り次ぐのにも力が入ってきます。

皆さんは、人におさづけをされるとき、「私のおさづけでたすかるのかしら」と思いませんか。相手の方から「このおさづけでたすかるのですか」ときかれませんか。

私は、そうした方には、こう申し上げます。

「人間の身体には自然治癒力というのがあります。指をケガしてもいつの間にか血が固まり治ってしまいますね。これが自然治癒力で、自分で自分の悪いところを直そうとする力です。この力は、人間が自分で出せるものではありません。それこそ、神様の力です。私がおさづけをさせていただくとき、どうか、あなたの自然治癒力が発揮できるようにと神様をお願いしています」と言っています。

そう言うと、大抵の方は納得してくださいます。まったくお断りになる方もいらつしゃいますが…。

ほぼ半日おさづけをして、他に献饌、撤饌、おつとめなどの御用が続き、一日は結構疲れて終わりますが、快い疲れではありません。

天理教青年会では、この教祖百四十年祭の活動方針として、「一人ひとりの三年千日の物語が、今はじまる」として、

「僕たちは、心を澄ますことからはじめよう。」というスローガンを掲げています。詰所などに配布

されています大きなポスターの中央にスローガンが書かれ、都会の風景を背に青年のうしろ姿が映っています。

青年会では、「心を澄ます毎日を」を基本方針として活動しています。

そして、ポスターの角には、

心さいすきやかすんた事ならば

どんな事でもたのしみばかり

というおふでさが書かれています。

去年の十一月、青年会総会で、中山大亮会長が告示を出されています。ここで、このスローガンについて「心を澄ます毎日を」をテーマに話されています。要約します。

ふたつのポイント①ほこりを減らす②誠を増やす。ほこりを減らすことで大切なことは、普段自分がどんなほこりを積んでしまいがちなことなのかに気付くこと。人間関係で悩んだりイライラしたりするときは自分自身のほこりに気づくときでもあります。「あいつが悪い」「こいつが悪い」と思うとき、その矢印を自分に向けてみる。そこで、自分のほこりに気づい

たら減らそうとしてみる。

次に、「誠を増やす」について。それは、人に良いように、「喜ぶように」、「たすかるように」、「相手がいいな」「うれしいな」「たすかるな」と思ってくれるような言葉かけや行いを、日常生活でそうした小さな誠を積み重ねていくことが大切。

しかし、ついそうする中で「人に見返りを求めてしまふ」ことが多くなります。

人が見返りを求めてしまふのは、その人ばかりを見ているからです。

私たちが人に親切にするのは「神様への恩報じのため」であって、そういう心になれば見返りは求めなくなります。

何のために、誠を尽くすのか。私たちは、いろんな場面で見返りを求めてしまいます。そのとき、私たちは「誠の行いは、神様への恩報じのために」しているのだと思出すことです。人ではなく、神様を見る、そうして日常生活で誠を積み重ねていくことです。

すると、「先の不安」が減っていきます。

私たちは、かしのかりものの教えを学ぶ中で、生

かされて生きていくことを学んできました。それまで、目に見えることばかりにとらわれて、つい自分の力でなんとかしなければ、「どうにかしないと」と自分中心の心遣いこそ、先の不安を作り出していたことに気づいてきました。

自分のものは、唯一心だけ、心通りに人生は作られているのです。こういう風に思うことで、私は、以前より先の不安が減り、心がとても楽になってきました。

教祖は、「先を楽しめ、先を楽しめ」とおっしゃっています。

私はこれからのお道も、課題はたくさんあるけれど、先が本当に楽しみです。課題はたくさんあるけれども、楽しみです。もがきながらも、この先の未来を作っていきたい。

心さえ澄んでいけば、きつと見える世界が変わってきます。今より楽しみばかりの美しく澄んだ世界が見えてくるはずです。

教祖のひながたに指針を求めながら、一人ひとりがほこりを減らし、誠を増やして努力をし、丁寧

生きていく。

必ずや、毎日が変わっていきます。

さて、みなさんは、「心澄ますために」何をしますか。と、問いかけられています。

どうでしょうか？



## ☆お知らせ☆

☆6月26日(水) 9時 本部・月次祭

☆6月29日(土) 18時 詰所祭

☆7月7日(日) 10時 女子例会

☆7月14日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしんと男子例会(詰所)

☆7月14日(日) 別席日(※一週間前の予約によって車出勤)

※別席場受付は、①午前8時～9時半 ②正午～13時半

☆7月18日(木) 10時 茶道 13時 三曲練習

☆7月22日(月) 前日準備ひのきしん

☆7月23日(火) 11時 月次祭

☆7月26日(金) 9時 本部・月次祭

◎こどもおぢばがえり 7月27日(土)

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう！(毎月、25日までに申し込み)